

聴覚優位傾向を示す自閉症児の臨床像把握

新版 K 式発達検査の分析から

池畑 美恵子

(淑徳大学発達臨床研究センター)

KEY WORDS: 自閉症 聴覚優位 新版 K 式発達検査

(目的) 感覚と運動の高次化理論では、子どもの発達を細かく捉えるための臨床類型を8つ示しており、その1つに聴覚優位タイプを想定している。聴覚優位タイプは、発語が多く、時に多語文レベルで流暢に話すものの、視覚-運動系の操作や弁別、空間把握等、視知覚領域でのつまづきが大きい子どもである。発語が一見多いため能力的に高く評価されやすいが、実際の行動面では視覚系の情報処理が苦手であまりかかないことが多く、マイペースさやパターン化による情緒不安、学習場面への回避傾向、身辺自立のすずみにくさ等が臨床的には指摘される。その支援にあたっては、臨床像の慎重な把握が求められており、中でも視知覚と聴知覚の個人内差を的確におさえていく必要がある。本研究では典型的な聴覚優位の子どもの3年間の支援経過から、新版 K 式発達検査の推移を資料としてその臨床像を明らかにする。

(方法) 対象児:A児 CA3歳台より3年間療育に通う。支援開始時の保護者のニーズはコミュニケーション面(初めてのことばでも教えればすぐ覚えるが、オウム返しや独り言が多く会話にならない)、身辺自立、状況理解、運動面の支援であった。初年度は、感覚過敏への対応、握る・引く・つまむ等の基礎的な手指操作学習、はめる・入れるの終点を中心とする視覚弁別学習、模倣活動に重点をおきすすめた。支援開始から10か月時の感覚と運動の高次化発達診断(宇佐川2007)では、発語領域がステージ5と最も高く、それに比して自己像や情緒、知恵、粗大運動、視覚運動領域は2ないし3水準の差があり、聴覚優位型と判断した。**分析の視点:**全4回実施した新版 K 式発達検査 2001 の結果と検査場面の録画映像から、認知適応領域(以下認知領域)と言語社会領域(以下言語領域)の発達と推移を上限・下限年齢の変化から明らかにする。また特徴的反応を抽出しその意味を検討する。

(結果と考察) 認知領域と言語領域の発達経過は、表に示す通りであった。4回を通して言語領域の方が認知領域よりDQ値が高いが、特にI、II期は領域間の開きだけではなく、領域内での下限・上限年齢も大きく開いており、基礎的な事物操作(丸棒、瓶から出す)や前言語行動(指さし)が未獲得のまま、マッチングレベルでの理解・応答が先行していた。

形を認識している、色名が答えられる等、高い部分だけを見ると実態を見誤りやすい時期である。特徴的反応として特にI期の認知領域は、検査全体で課題の始点理解が困難であった。例えば積木の塔は評価上5まで通過したが、積み始めるまでにかかり手がかりと時間を要した。静観的姿勢が弱く検査道具を見ると瞬発的に回転させたり、払うように机から落とし音を確認する自己刺激も頻出した。またI期は、丸棒例後や瓶から出す、はめ板回転など物と物の関係理解レベルが未通過である一方、手の運動操作が少ない弁別Iは確実というアンバランスを示した。はめ板回転ではすぐに両手使用となり、正中線を超えた操作が困難であった。言語領域では絵や色名など刺激-応答型の項目は明確に回答するが、身体部位は音声模倣が優位で一部を除き定位は困難。絵指示も絵をなでるように反応しており、意味理解はあるが言語以外での応答表現が確立していなかった。II期は指さしや応じる姿勢を獲得したことで言語領域の下限年齢が上がるが、表情理解Iや大小比較など抽象度の上がる問いは、図版をよく見ずすべて音声模倣で応答しており聴覚優位傾向が顕著であった。II期認知領域では、積木の塔はI期同様、始点理解に手がかりを要するが、一旦積み始めると、勢いよく積み上げ崩し笑うことを繰り返した。自己流の遊び(崩す)ではあるが手段-目的の分化と行為-情動のつながりが認められた。はめ板回転も両手使用だが「マル、サカ、ソク」と言いながら試行し通過した。III期は、弁別IIや十字模写もすべて音声言語化して応答(通過)した。このようにII期からIII期にかけて得意な情報処理(聴覚)が補助となっているが、言語化しにくい空間把握課題(角板、入れ子5個)はIV期でも依然、苦手であった。弁別レベルの視知覚は育ちつつあり、空間イメージと手指操作の促進が次の支援課題になると考えられる。

(結論) 聴覚優位傾向の臨床像として操作における始点理解、正中線を超えた事物操作、静観的認識の困難性が指摘できる。今後は日常場面や対人場面から臨床像をさらに整理したい。

(文献) 宇佐川浩(2007)『障害児の発達臨床 I 感覚と運動の高次化から見た子ども理解』学苑社 *本研究は保護者の許可を得て掲載している。(IKEHATA Mieko)

表 新版K式発達検査2001の上限年齢と下限年齢の結果一覧

		1:03	1:06	1:09	2:00	2:03	2:06	3:00	3:06	4:00	
I 期 CA3:7	C-A	丸棒例後・瓶から出す				形の弁別 I 3/5					
	L-S	指さし行動							色の名称		
II 期 CA4:7	C-A	瓶から出す					縦線模倣				色の名称
	L-S	表情理解 I			4 数復唱						
III 期 CA5:7	C-A	角板例後・3個のコップ				十字模写例前					
	L-S	表情理解 I			4 数復唱						
IV 期 CA6:9	C-A	入れ子5個				十字模写例前					
	L-S	表情理解 II・姓名・年齢						4 数復唱			

注: 課題名は上限、下限を定めた検査項目を意味する。▼ ● 記号は、DQ値を指している。